



き ぎ き

<http://www.kisho.city-niigata.ed.jp/>



令和2年度 第2号

「ち」と打つと

校長 増井 一久

「ち」と打つと 最初に出る文字 「中止」なり

コロナ禍の今、計画されていた様々なことが次々と中止になっています。スマホのスケジュールアプリに入力していた予定には、連絡が来るたびに「中止」と打ち込んでいます。最近は、「ち」と打つだけで予測変換機能が「中止」と反応するようになってしまいました。

5月6日までだった緊急事態宣言は、5月4日に「現状では以前の日常を取り戻せない」との判断から延期となりました。これを受け新潟市内の学校園では、臨時休校が延長されることとなりました。この臨時休校期間は、本格的な登校再開に向けた準備期間です。休校中の学習等の遅れを取り戻すためだけでなく、子どもの健康の保持増進、学習への意欲の喚起と持続、仲間づくり、家庭での学習の課題等の方向付け、心身のケア等を目的としています。現在、「3密」を避けて学級を2つに分け、午前と午後の分散登校をし、2時間ずつ学習を行っています。皆様には分散登校の趣旨をご理解いただき感謝申し上げます。

さて、今から約100年前、世界中に感染が広まった「スペイン風邪」の流行期に岐阜県のある村が村民に発した注意喚起の通知文を見つけました。

- 一、児童の身体に少しでも怪しいと思われる様子（頭痛・発熱）が見えたら、早く医者に見てもらふこと
- 一、誰でも此の感冒にかかれば、別の室に寝させ、鼻汁や痰（たん）を能（よ）く消毒すること
- 一、病人の咳（せ）く時は、唾が他人にかからぬ様にする

スペイン風邪による死者数は世界中で2000～4500万人、日本では39万人（内務省衛生局編『流行性感冒』による統計数値）という記録があります。この間は今のように休校措置が各地で取られました。スペイン風邪の感染終息には約2年を費やしたそうです。大正8（1919）年2月15日の読売新聞の記事に「感冒患者1000万人」と題し、当時の様子が詳しく記載されていました。「新潟県の死亡率が最も高い」ということも紹介されていて驚きました。このような状況の中でも1920年4月から9月にかけて、ベルギーのアントワープでオリンピックが開催されました。日本も参加し、テニスで日本初のメダル（銀）を獲得しました。

100年前も感染者の隔離、消毒、咳エチケットなど、現在の新型コロナウイルス感染防止対策と同じような対処法が取られていたようです。当時もマスク不足が問題化し、国民に無料配付されましたが、それでもなお足りず、マスクの自作が推奨されました。また、衛生講話会が全国各地の映画館、劇場、寄席、銭湯などを会場にして行われ、広報映像で国民に感染予防の徹底が呼び掛けられました。今、世界的に有名になった日本人のマスク着用率の高さは、この時の啓発が現代に受け継がれていると言われています。

現代の医学は100年前に比べ格段に進歩しています。必ずや近いうちに特效薬が開発されるものと信じています。また、著名人をはじめ多くの人々が周りを勇気づけたり、生活に役立つ情報を様々なかたちで発信したりしています。先週、新潟県の緊急事態宣言は解除されました。新潟市内の学校園は6月1日から授業再開です。しかし、今後しばらくの間は「新しい生活様式」の実践が必要です。

「ち」と打つと「挑戦」や「チャレンジ」等、前向きな言葉に変換される日の到来を待ち望んでいます。

令和2年度 木崎小学校の重点目標と取組

「夢を描く力」を育む木崎小学校の教育を推進していくために、「資質・能力&授業力部」「自立&支持的風土部」「健やかな体づくりの推進部」「特別支援教育部」では、次のような活動に取り組んでいきます。



①資質・能力&授業力部

【現状と課題】

- ① 笹山小学校と統合し学区が広がりました。これまでの生活科・総合的な学習の取組を見直し、地域の魅力を生かした学習活動を計画し、子どもたちが主体的・協働的に学ぶ姿を目指します。
- ② 帰りの会の10分間を活用した「ステップアップタイム」の取組を通して、家庭学習の習慣が定着してきました。全校テストや日々の学習でのさらなる学力の向上を目指します。

【重点目標】

- ① 自分で課題を見つけ、主体的・協働的に学ぶ子ども
- ② 自分で計画を立てて家庭学習に取り組み、自分の力を伸ばす子ども

【目標達成のための手立て】

- ①-1 子どもたちが自ら課題を見つけて主体的に課題に取り組めるように、新しい学区の魅力を生かした単元の構成や学習内容を計画します。
- ①-2 友達と協力しながら主体的に学習を進めるための話し方・聞き方・書き方を「学びのスキル」として各学級に掲示し、学年の発達段階に応じて継続的に指導します。
- ②-1 「ステップアップタイム」で家庭学習の計画を立て、取り組みます。毎日の学習の復習や全校テストに向けての学習など、どんな家庭学習に取り組むとよいか、担任が継続的にアドバイスします。

②自立&支持的風土部

【現状と課題】

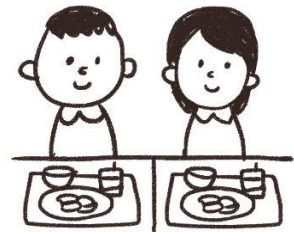
- 自己評価で、「自分にはよいところがあると思いますか」という問いに、肯定的な評価をしている子どもが増えてきています。今年度は、さらに自分に自信をもち、友達にも思いやりの心で接することができる子どもを目指します。

【重点目標】

- 子ども一人一人を多面的に理解し、子どもに良さを伝えることで自己肯定感を高めるとともに、子どもとの信頼関係を築く。

【目標達成のための手立て】

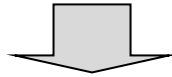
- 全職員で子どもの頑張っているところや良いところを褒め、認め、声掛けを繰り返すことで、子どもに自信をもたせ、自己肯定感を育みます。
- 縦割り班清掃の反省会で、子ども同士で互いに頑張っているところ、良かったところを発表し合います。また、学級での係活動、委員会活動や清掃、クラブ、縦割り活動等をやり切ることで、達成感・自己有用感をもたせます。



③ 健やかな体づくりの推進部

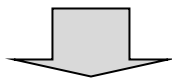
【現状と課題】

- 約10年に渡り続けてきた「弁当の日」は、平成29年度から年間2回、全校で実施して、力を入れて取り組んでいます。実施後の児童アンケートでは、90.8%が「食に関する関心、理解が深まった。」と答えています。子どもたちは、弁当作りを通して家族とのコミュニケーションを深め、自分の食事に関心を持つようになってきています。



【重点目標】

- 食事に関心を持ち、望ましい食習慣を形成する。



【目標達成のための手立て】

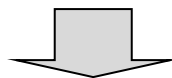
- 「弁当の日」に全校児童で取り組みます。地域の産物や人材を生かし関心を持たせます。(低学年は地域の産物を知る。中学年部は、地域の産物を調べる。高学年は地域の産物を使う。)
- 栄養教諭によるランチタイム指導で、望ましい食習慣についての指導を行い、給食の時間を活用して、児童の食育についての意識を向上させます。



④ 特別支援教育部

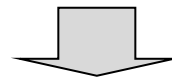
【現状と課題】

- 個々の児童の課題が多様化しています。多様な児童に対応するため、個別の指導計画や教育支援計画を作成し、それを活用していきます。
- 集団の中での変容が見られるよう、個別の指導計画をもとに個に応じた目標や手立てを考え、社会参加の力を育てていく必要があります。



【重点目標】

- 特別な支援を要する児童について、個別の指導計画等を活用しながら適切な支援を行い、自立と社会参加の力を育む。



【目標達成のための手立て】

- 自立を促す支援ができるように、個別の指導計画等を作成し、情報の共有と評価、見直しを行います。
- 一人一人に応じた支援を心がけ、良いところは認めほめ、作成した個別の指導計画の短期目標が達成できるようにします。

令和2年度 「夢を描く力」を育む 木崎小学校教育ビジョン

<教育目標>

<すじみちを立てて考える子ども><明るく思いやりのある子ども><からだをじょうぶにする子ども>

(重点課題)

意欲的に考える子ども

きまりを守り自他を尊重する子ども

健康的な生活習慣を身に付ける子ども

学力の向上

・「探究的な学習の充実(総合)」「思いや願いをもち意欲的に課題に向かう姿(生活)」を目指した授業づくり。

豊かな心

・児童一人一人を多面的に理解し、児童の良さを伝えることで自己肯定感を高めるとともに、児童との信頼関係を築く。

健やかな体

・食事に関心を持ち、望ましい食習慣を形成する。

・探究の過程〔①課題の設定②情報の収集③整理・分析④まとめ・表現〕を意識した単元構想をし、授業を公開する。(各学年 年1回)
・児童自ら課題を見つけて、主体的・協働的に学ぶ授業づくりについて、研修を行う。(年1回)

・全職員で児童の良いところを積極的に見付けて、声掛けを繰り返す。(随時)
・学級のグループや縦割り班での清掃の反省会で、児童同士で互いに頑張っているところ、良かったところを発表し合う。(清掃時)

・「弁当の日」を全校児童で取り組む。地域の産物や人材を生かし関心を持たせる。(低学年は地域の産物を知る。中学年部は、地域の産物を調べる。高学年は地域の産物を使う。)(年2回)
・栄養教諭によるランチタイム指導で、望ましい食習慣についての指導を行い、給食の時間を活用して、児童の食育についての意識を向上させる。(年2回)

特別支援教育

特別な支援を要する児童について、個別の教育支援計画並びに個別の指導計画等を活用しながら適切な支援を行い、自立と社会参加の力を育む。

↑
・自立を促す支援ができるように、個別の教育支援計画並びに個別の指導計画を作成し、情報の共有と評価、見直しを行う。(年2回)
・一人一人に応じた支援を心がけ、良いところは認め褒め、個別の指導計画の短期目標が達成できるようにする。(随時)

<支持的風土の醸成>

笹山小学校との統合により、地域が広がり、児童にとっては友達が増え、新しい体制としてスタートした。令和2年度は、友達の個性や良いところを理解し、より良い人間関係を築き、自他を大切に、温かい木崎小学校の具現を目指す。

↑
・「自立を促す生徒指導の推進」を中核エンジンとして、学級・学年・縦割りの様々な活動を通して、校内に支持的風土を醸成する。

<保護者や地域と共に歩む開かれた学校>

◎旧笹山小学校区民にも活動を広く知って参加いただき、新しい木崎小パートナーシップ事業はどうかあればよいのかを考えて実践していく。
・地域教育コーディネーターを中心に、積極的に地域の人材活用に努め、保護者や地域との協働を進める。
・学習支援ボランティアや地域の人材を生かした食育を充実させる。
・生活習慣改善に向けた生活リズム、食事、ノーメディア等の強調週間等で家庭との連携を図る。